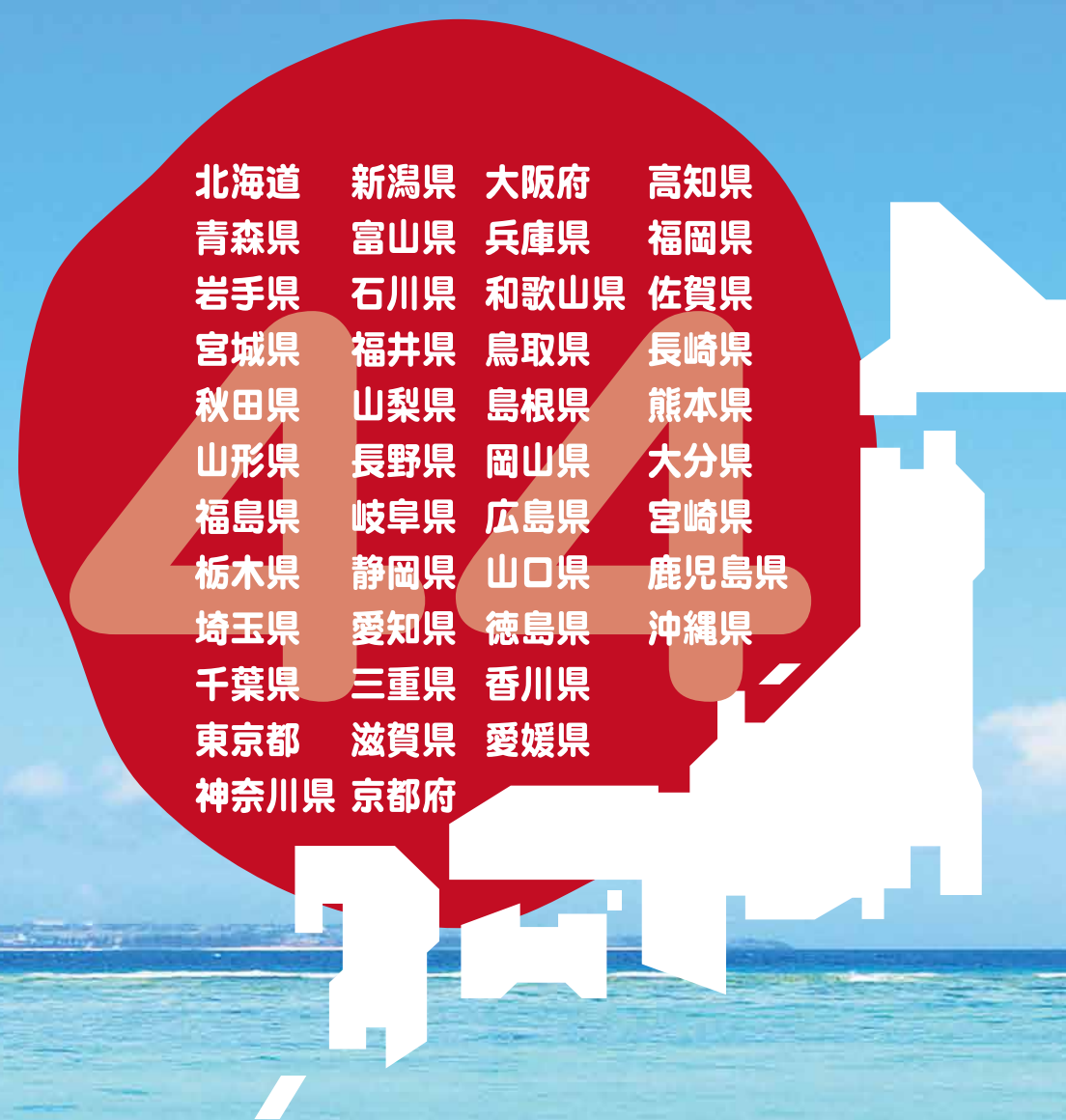


# 海と人と人をつなぐ。

さまざまなかたちで日本人の暮らしを支え、ときに心の安らぎやワクワク、ひらめきを与えてくれる海。そんな海で進行している環境の悪化などの現状を、子供たちをはじめ全国の人たちが「自分ごと」としてとらえ、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、日本財団、総合海洋政策本部、国土交通省の旗振りのもと、オールジャパンで推進するプロジェクトです。

## 全国で約264万人が参加している オールジャパンで推進しているプロジェクトです。



オールジャパンで推進しています。

44都道府県に実行委員会があります。

全国老若男女264万人が参加しています。

### 海と日本プロジェクトが推進する5つのアクション



**海を学ぼう!**

“海と自分とのつながり”を感じることを。



**海をキレイにしよう!**

出会いと喜びを創造すること。



**海を味わおう!**

海の恩恵に深く感謝すること。



**海を体験しよう!**

海の感動を分かち合うこと。



**海を表現しよう!**

海から創造する力を手に入れること。

次世代が海への好奇心を持ち、行動を起こすムーブメントをつくることを目指しています。

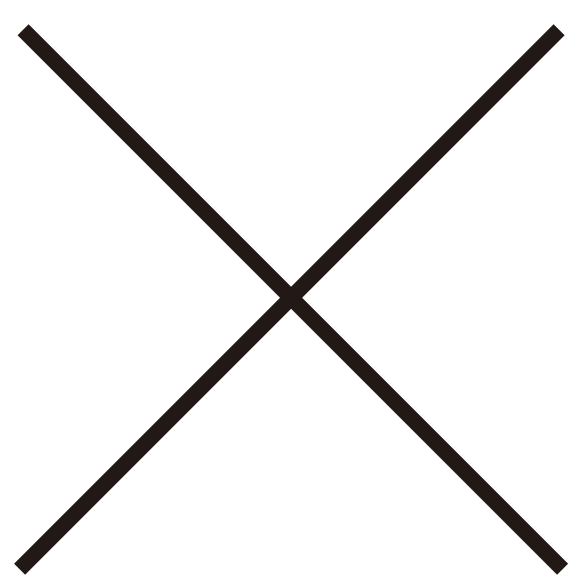
### 海と日本プロジェクト“CHANGE FOR THE BLUE”とは



“これ以上海にごみを出さない”という社会全体の意識を高めるムーブメントを起こすため、海洋ごみの削減モデルを作り、国内外に発信するプロジェクトです。

「海洋ごみ」の量はここ数十年で増え続けていて、その大半はプラスチックです。海に流出したプラスチックは海洋環境だけでなく、人体への影響も懸念されています。このまま何もしなければ、海に流出するプラスチックは現在の10倍以上になるとの予測もあります。海の豊かさを守り(the blue)、海にごみを出さない(change)という強い意思で日本全体が連帯し、海に関心を持つ人を増やし、海の未来を変える挑戦を実現していきます。





## 北海道530プロジェクトとは？

このイベントは、国民の一人ひとりが海洋ごみの問題を自分ごととし、  
“これ以上海にごみを出さない”という社会全体の意識を高めるため、産官学民が協力し合う取り組みで、  
日本財団 海と日本プロジェクト「CHANGE FOR THE BLUE (チェンジ・フォー・ザ・ブルー)」の一環として実施しています。  
今回は、道内沿岸部都市と札幌市の小学生が地元の海岸や公園などでごみ拾いや調査を行い、  
北海道から「海ごみゼロ」を目指します。

## 活動内容は？

海岸や公園でのごみ拾いを通じ、太平洋・日本海・オホーツク海に囲まれた北海道にどんなごみが流れ着いているのか、  
海のない札幌市内の公園でも川によって運ばれて流れ着くごみがどれだけあるのかなどを調査します。  
各地のごみの種類や量を比較し、今後どうすればごみを減らせるか考えます。

内陸編〈札幌市〉



オホーツク海編〈網走市〉



日本海編〈小樽市〉



津軽海峡編〈函館市〉



太平洋編〈白糠町〉



### 調査内容

- 人工物(人が捨てたごみ)はどれだけあるか。
- 人工物のうち、外国のものはあるか。
- 自然物はどんな種類のものがあるか。
- ごみを調べて気付いたことはあるか。
- どうすればごみが減ると思うか。
- これからどんなことに気を付けたいか。



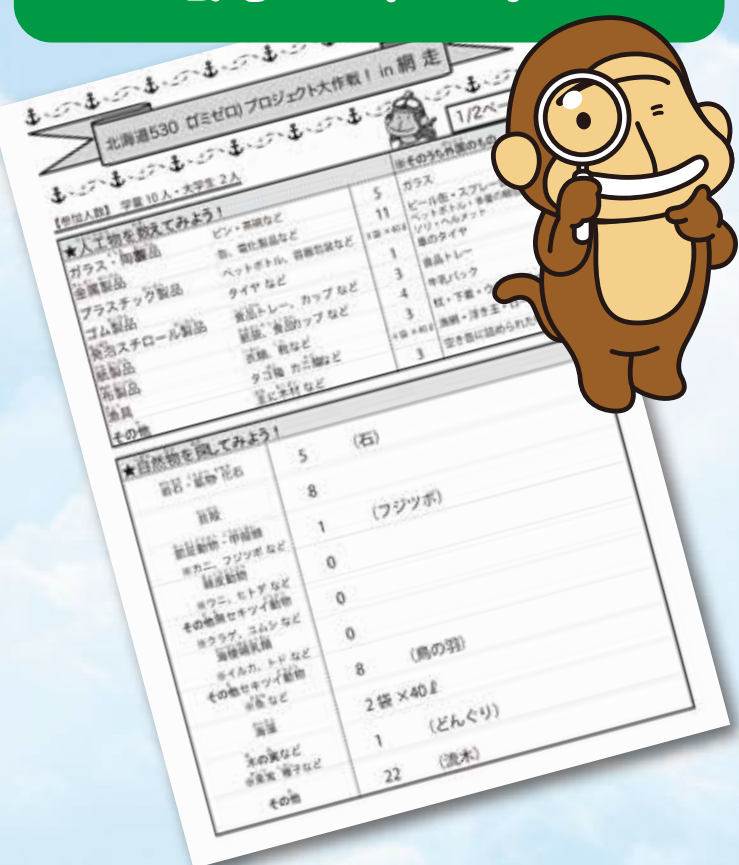
# オホーツク海編〈網走市〉



- 調査日 2019年6月22日(土)
- 調査場所 網走市海岸町海浜
- 参加者 いせの里児童センターの子どもたち10人、大学生2人、職員ら6人
- 天気 くもり

当日は、大学生ボランティア2人も参加してくれました。海岸を見て「汚い!」と声を上げた子どもたち。あちこちに落ちていたビール缶やスプレー缶、ペットボトル、梱包紐などをみんなで拾い集めました。中には枕や下着、ウエットスーツもあってびっくり。魚網、浮き玉、ロープなどの漁具もあり、その量は40リットル袋で4袋分にもなりました。拾ったごみの種類を題材にビンゴ大会も実施。みんなで楽しくごみを調査しました。

## 調査結果

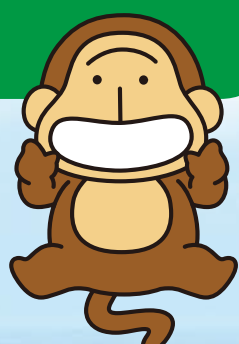


人工物を探してみよう!			
ガラス・陶器製品	ビン・茶碗など	5	ガラス
金属製品	缶、電化製品など	11	ビール缶・スプレー缶
プラスチック製品	ペットボトル、容器包装など	3袋×40ℓ	ペットボトル・多量の梱包紐、ソリ・ヘルメット
ゴム製品	タイヤなど	1	車のタイヤ
発泡スチロール製品	食品トレー、カップなど	3	食品トレー
紙製品	紙袋、食品カップなど	4	牛乳パック
布製品	衣類、靴など	3	枕・下着・ウエットスーツ
漁具	タコ箱、カニ籠など	4袋×40ℓ	魚網・浮き玉・ロープ
その他	主に木材など	3	空き缶に詰められた吸い殻

自然物を探してみよう!	
岩石・鉱物・化石	5(石)
貝殻	8
節足動物・甲殻類 ※カニ、フジツボなど	1(フジツボ)
棘皮動物 ※ウニ、ヒトデなど	0
その他無セキツイ動物 ※クラゲ、ユムシなど	0
海棲哺乳類 ※イルカ、トドなど	0
その他セキツイ動物 ※魚など	8(鳥の羽)
海藻	2袋×40ℓ
木の実など ※果実、種子など	1(どんぐり)
その他	22(流木)

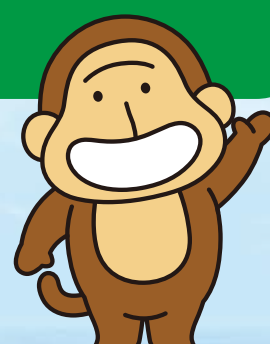
### ごみを調べて気が付いたことや感想は?

- 汚い!と思った。
- だらしない大人を一喝してほしいと思った。
- 汚い浜辺を見て、全部拾おうと思った。
- 皆で協力して浜辺を綺麗にできて嬉しかった。
- 捨てた人は、次から捨てないでほしいと思った。



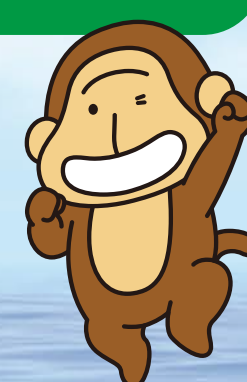
### どうやったらごみが減ると思いますか?

- ポイ捨てしない意志を持つ。
- ごみを見つけたら、拾う。
- エコバッグを使って買い物をする。
- 農家さんは、肥料の袋など、風や雨に飛ばされない様に気をつける。
- 漁師さんは、使えなくなった道具をポイ捨てしない。
- エコな素材の道具を使う様にする。
- 皆が、分別をきちんと行うなど、リサイクル活動を積極的にする。



### これからどんなことに気を付けていきたいと思いますか?

- ごみを見つけたら近くのごみ箱へ捨てる様にする。
  - ごみは、綺麗にまとめて家へ持ち帰ると良い。
  - 街の清掃活動に参加する。
- 【大学生ボランティアへの質問：今回の印象について】
- 子どもたちの直感的な行動や言動に触れ、心が洗われた。
  - 子どもたちと行動を共にする活動は意義深く、参加して良かった。



### 引率の先生にインタビューしました



いせの里児童センター／菊地翔太郎さん・石原久実さん  
 子どもたちが前向きに取り組んでいたのがとても良かったと思います。初めは活動に消極的だった子が、最後には自ら大きなタイヤを引きずって持ってくるなど、子どもたちに問題意識が芽生えたと感じました。今回は児童センターだけでなく、地域の方や大学生にも関わっていただき、地域と繋がった活動になりました。



# 日本海編〈小樽市〉



みんなで楽しく調査しました



ごみの中には流木も



集めたごみ



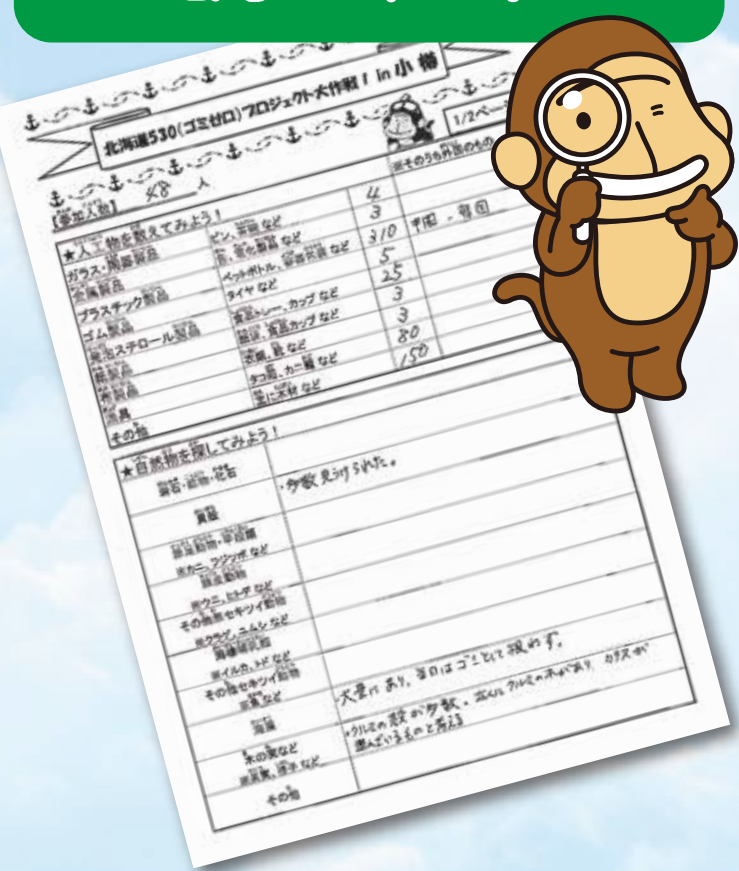
調査した場所



- 調査日 2019年6月29日(土)
- 調査場所 小樽市塩谷海岸
- 参加者 塩谷児童センターの子どもたち23人、大人(保護者や職員)25人
- 天気 くもり

みんなで海岸のごみを拾いました。ごみの中で目立ったのは、ペットボトルや容器包装などのプラスチック製品。日本製品のほか、パッケージに韓国や中国の文字が書かれたものもありました。食品トレーなどの発泡スチロール製品も多く捨てられていたのを見て、子どもたちが「自分のごみをポイ捨てをしないようにしたい」と話してくれました。自然物では、貝や海藻、近くのクルミの木から落ちたクルミの殻もありました。

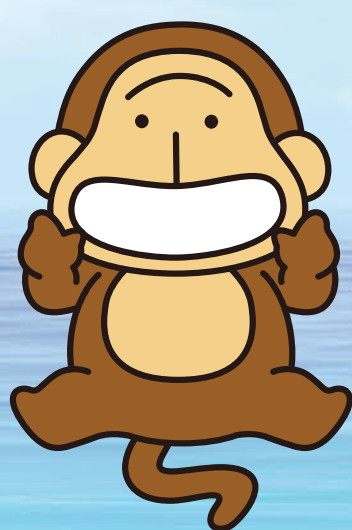
## 調査結果



人工物を探してみよう!			そのうち外国のもの
ガラス・陶器製品	ビン、茶碗 など	4	
金属製品	缶、電化製品 など	3	
プラスチック製品	ペットボトル、容器包装など	310	中国・韓国
ゴム製品	タイヤ など	5	
発泡スチロール製品	食品トレー、カップ など	25	
紙製品	紙袋、食品カップ など	3	
布製品	衣類、靴 など	3	
漁具	タコ箱、カニ籠 など	80	
その他	主に木材 など	150	

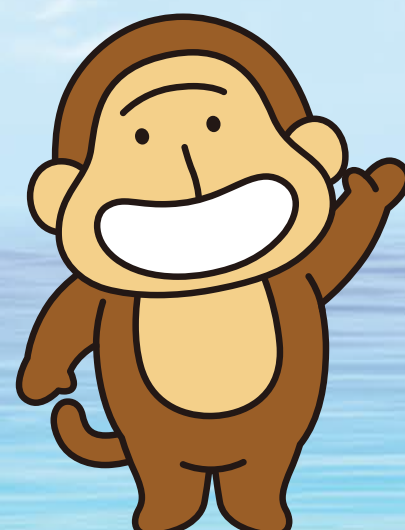
自然物を探してみよう!	
岩石・鉱物・化石	
貝殻	多数見つけられた。
節足動物・甲殻類 ※カニ、フジツボなど	
棘皮動物 ※ウニ、ヒトデなど	
その他無セキツイ動物 ※クラゲ、ユムシなど	
海棲哺乳類 ※イルカ、トドなど	
その他セキツイ動物 ※魚など	
海藻	大量にあり、当日はごみとして扱わず。
木の実など ※果実、種子など	クルミの殻が多数。近くにクルミの木があり、カラスが運んでいるものと思われる。
その他	

### ごみを調べて気が付いたことや感想は?



- 魚をとる網が意外と多かった。
- プラスチックのごみが圧倒的に多かった。
- 韓国や中国の字がかかっているごみもあった。
- 全部とるのは大変だと思った。

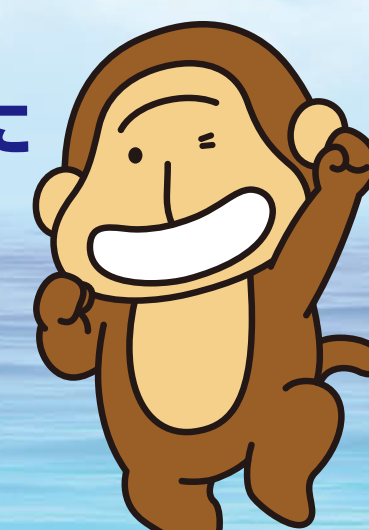
### どうやったらごみが減ると思いますか?



- 一人ひとりが気をつけるしかないと思う。
- 大きな機械をつかって一気にきれいにするといいと思う。

### これからどんなことに気を付けていきたいと思いますか?

- 塩谷の浜を大切にしたいと思う。(多数)
- ごみのポイ捨てをしないようにしたいと思う。(多数)



### 引率の先生にインタビューしました



塩谷児童センター 福田信正さん

このような活動を通じて、地元の海岸をきれいにしようという気持ち、ふるさとの海を大切にしたい気持ちを持ってもらいたいです。児童センターには毎日来る子どももそうでない子どももいます。どの子どもがどのタイミングで来ても仲良く安全に生活できることを第一に、その上でふるさとの塩谷を大切にしたいと思っています。



# 内陸編〈札幌市〉



- 調査日 2019年6月29日(土)
- 調査場所 札幌市手稲区北発寒公園
- 参加者 新発寒小ミニ児童会館の子供たち13人、引率の先生2人
- 天気 くもり



動物に食いちぎられたような跡がある容器



植え込みの中にも入って調査



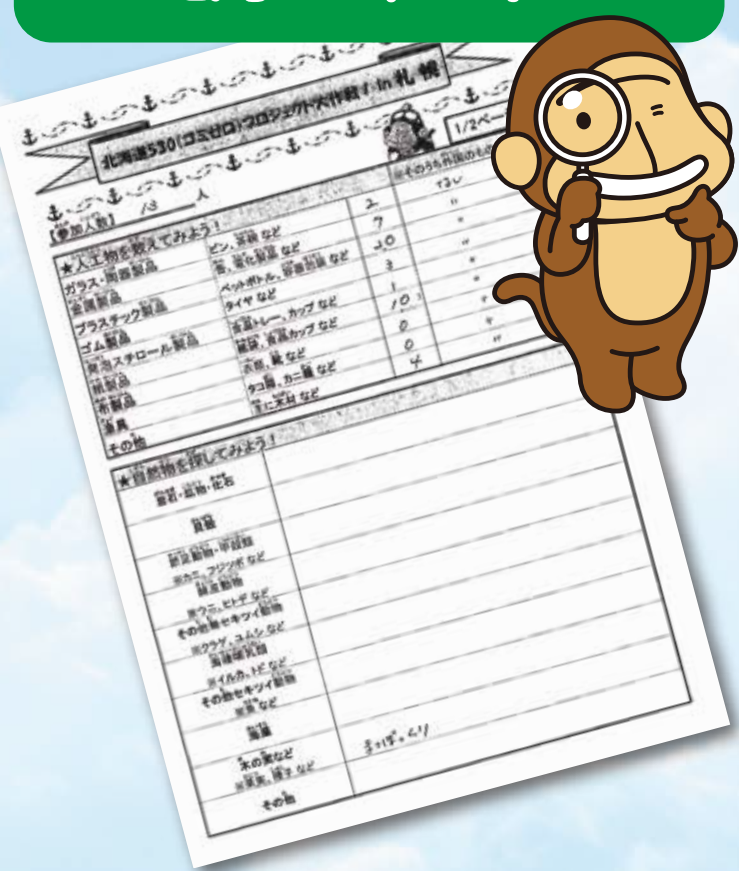
捨てられていた菓子の袋



調査場所

児童会館からみんなで歩いて北発寒公園へ向かいました。公園の真ん中のほうは比較的ごみが少なかったため、植え込みの中にも入って調査しました。集まったごみは、ジュースの空き缶やプラスチックの容器、スナック菓子の袋など。中には、なんと古い自転車まで！ ごみを減らすために、子どもたちは「外にごみを捨てないように気を付ける」「ごみを見つけたら捨てるようにする」「ごみを持ち帰る」など口々に決意を話してくれました。

## 調査結果

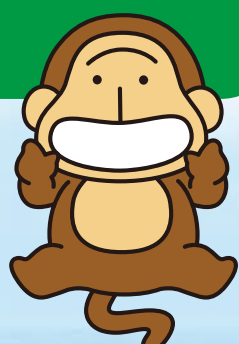


人工物を探してみよう!			そのうち外国のもの	
ガラス・陶器製品	ビン・茶碗など	2		
金属製品	缶、電化製品など	7		
プラスチック製品	ペットボトル、容器包装など	20		
ゴム製品	タイヤなど	3		
発泡スチロール製品	食品トレー、カップなど	1		
紙製品	紙袋、食品カップなど	10		
布製品	衣類、靴など	0		
漁具	タコ箱、カニ籠など	0		
その他	主に木材など	4		

自然物を探してみよう!		
岩石・鉱物・化石		
貝殻		
節足動物・甲殻類 ※カニ、フジツボなど		
棘皮動物 ※ウニ、ヒトデなど		
その他無セキツイ動物 ※クラゲ、ユムシなど		
海棲哺乳類 ※イルカ、トドなど		
その他セキツイ動物 ※魚など		
海藻		
木の実など ※果実、種子など		まつぼっくり
その他		

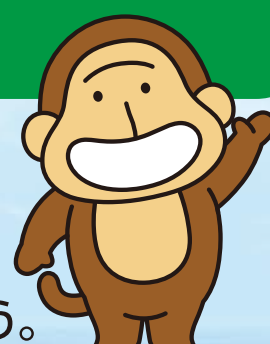
### ごみを調べて気が付いたことや感想は?

- 小さい虫が気になった。 ●くさかった。
- ビン・缶なども捨ててあった。
- 古い自転車があった。 ●日用品が多かった。
- たばこが落ちていたらいやだ。 ●ティッシュが落ちていた。
- みんながこれからも公園に捨てないでほしい。
- あまり公園でごみを見つけたり探したりすることがないから楽しかった。
- 予想よりもごみがいっぱいあってびっくりした。
- 茂みにたくさん落ちていた。



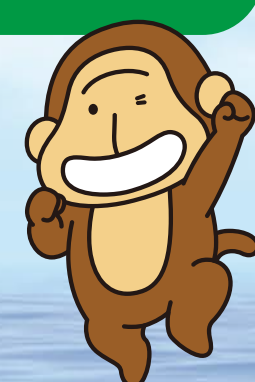
### どうやったらごみが減ると思いますか?

- ひとつひとつひろっていけば減ると思う。
- 外にごみを捨てないということを心がける。
- 自分のごみを自分で持っていれば良いと思う。
- いろんなところにゴミ箱をできるだけおいたらいいと思う。
- ポイ捨てしてる人がいたら声をかけたらいいと思う。
- 看板をちゃんと見る。
- 人が使い終わったものをすぐに捨てずにリサイクルをして使ってほしい。



### これからどんなことに気を付けていきたいと思いますか?

- 外にごみを捨てないように気を付ける。
- ごみを捨てた人のまねをしないで気をつけたい。
- ゴミを見つけたら捨てる。
- ごみを持ち帰る。
- ポイ捨てはしたことがないけど、これからもポイ捨てないように習慣をつけていきたい。**
- ごみをポイ捨てしている人を見かけたら注意できたらいい。
- 今はプラスチック問題とかがあるから多くのお店で紙ストローに変えることが大切だと思う。



### 引率の先生にインタビューしました



新発寒小ミニ児童会館 千田知美さん

児童会館でも普段から、自分で出したごみは自分で持ち帰る、再利用できるものは再利用するということを子どもたちに伝えています。最近では100円ショップなどでいろいろなものを安く手に入れられるので、壊れたらすぐ新しいものを買うという風潮がありますが、今日のような活動を通じて、ものを大事に使う意識が芽生えてほしいですね。



# 太平洋編〈白糠町〉



- 調査日 2019年7月6日(土)
- 調査場所 白糠町道の駅しらぬか恋問
- 参加者 やまびこ児童館とふれあい児童館の子どもたち18人、先生5人
- 天気 くもり



プラスチック容器を見つけた子どもたち



自然物にも注目



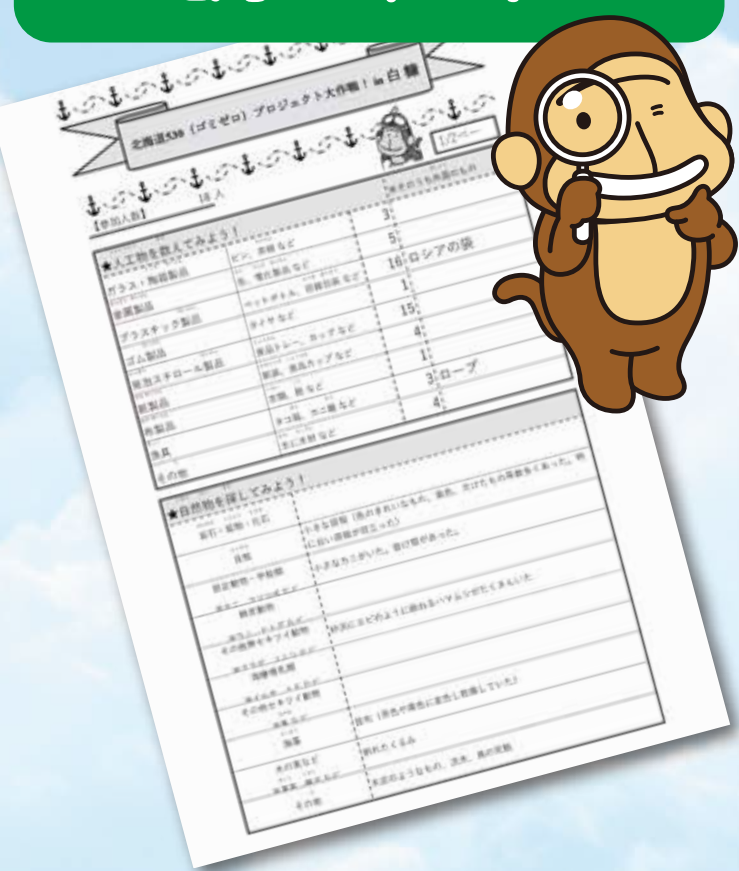
多数見つかった白い貝殻



調査場所

2つの児童館による合同調査で、みんなでバスに乗って現地まで移動しました。最初は児童館ごとに調査をしていましたが、次第に打ち解け、最後はみんなで一緒に記念撮影をしました。ごみの中で目立ったのはプラスチック製品と発泡スチロール製品。ロシアのものと思われる袋もありました。ごみは比較的少なかったため、子どもたちの関心は自然物へ。特に、砂の上にたくさん落ちていた貝殻にみんなの注目が集まりました。

## 調査結果

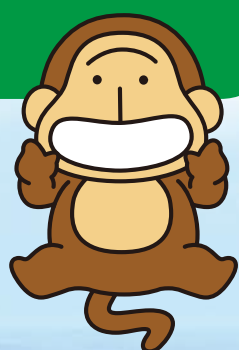


人工物を探してみよう!			そのうち外国のもの
ガラス・陶器製品	ビン・茶碗など	3	
金属製品	缶、電化製品など	5	
プラスチック製品	ペットボトル、容器包装など	16	ロシアの袋
ゴム製品	タイヤなど	1	
発泡スチロール製品	食品トレー、カップなど	15	
紙製品	紙袋、食品カップなど	4	
布製品	衣類、靴など	1	
漁具	タコ箱、カニ籠など	3	ロープ
その他	主に木材など	4	

自然物を探してみよう!	
岩石・鉱物・化石	
貝殻	小さな貝殻(色のきれいなもの、紫色、欠けたもの等数多くあった。特に白い貝殻が目立った)
節足動物・甲殻類 ※カニ、フジツボなど	小さなカニがいた。抜け殻があった。
棘皮動物 ※ウニ、ヒトデなど	
その他無セキツイ動物 ※クラゲ、ユムシなど	砂浜にエビのように跳ねるハマムシがたくさんいた。
海棲哺乳類 ※イルカ、トドなど	
その他セキツイ動物 ※魚など	
海藻	昆布(茶色や黒色に変色し乾燥していた)
木の実など ※果実、種子など	割れたくるみ
その他	木炭のようなもの、流木、鳥の死骸

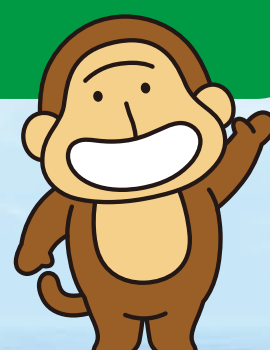
### ごみを調べて気が付いたことや感想は?

- 貝殻が多い。 ●汚いと思った。
- 海はきれいにしなければならぬ。
- ごみは絶対捨てたらだめ。
- あまりごみがないと思っていたが、たくさんあってびっくりした。
- 魚が死んでしまう。 ●欲しい貝殻が色々あった。
- 漁具に使うものも落ちていた。 ●鳥の死骸があった。
- ティッシュなどの紙製品はあまりない。 ●流木が多い。
- バーベキューで使ったような木炭が捨てられていた。



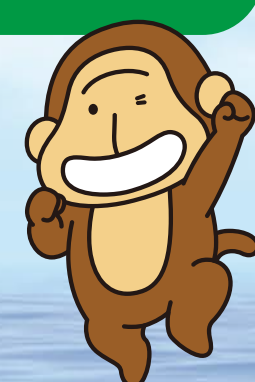
### どうやったらごみが減ると思いますか?

- ごみはごみ箱に捨てるときれいになる。
- 海にごみを捨てない。
- 自分もごみを捨てずに、まわりの人にもごみを捨ててはいけないことを話す。呼びかけをする。
- ごみ拾いをする。
- 一人一人が気を付ける。
- ごみは持ち帰る。
- ごみを捨てなければいいと思う。



### これからどんなことに気を付けていきたいと思いますか?

- ごみを海に捨てないこと。
- 海以外でもごみを捨てない。
- まわりに捨てないよう伝える。
- ごみを減らすためにごみを出さないように気を付ける。



### 引率の先生にインタビューしました



やまびこ児童館 栗石比登美さん

ごみをはじめ環境問題については職員も普段から意識し、子どもたちにも「ごみは捨てない」「ごみを見つけたら拾う」ということを指導しています。児童館では年に1~2回、環境学習活動として公園などのごみ拾いを行っています。そのときだけやればいいというのではなく、普段から心がけることが大切。今後も子どもたちに伝えていきたいと思っています。



# 津軽海峡編〈函館市〉



調査場所



砂浜のごみを集める子どもたち



ごみ?自然物?興味津々の表情



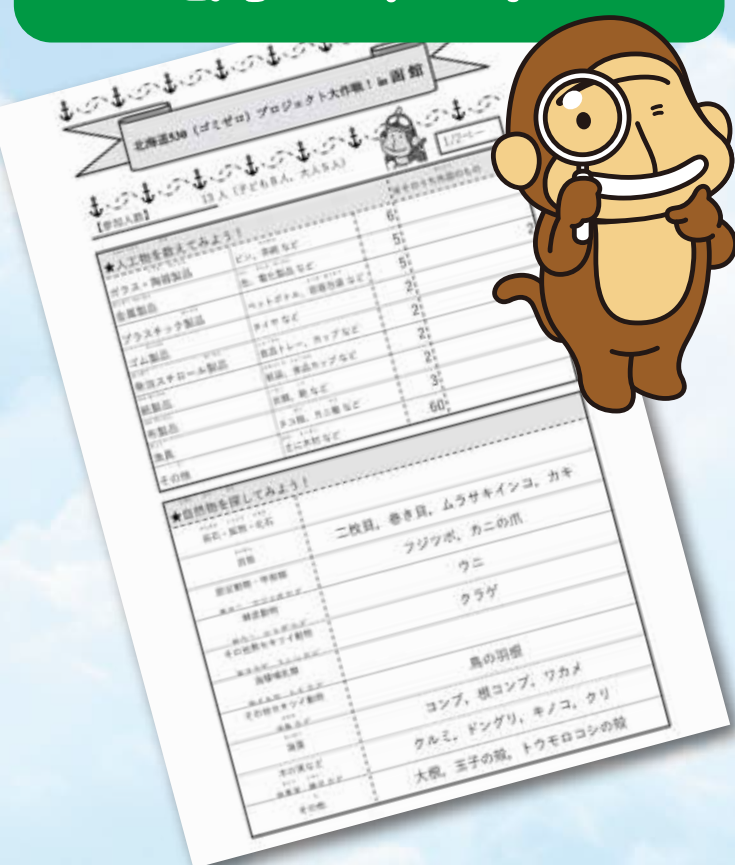
ハングル文字のパッケージ



- 調査日 2019年7月13日(土)
- 調査場所 函館市湯浜町漁港脇の砂浜
- 参加者 湯浜児童館の子どもたち8人、大人5人、北海道博物館の圓谷昂史さん
- 天気 くもり

みんなで歩いて湯浜漁港脇の砂浜へ行き、「プラ班」「金属班」などごみの種類ごとに班分けをして調査をしました。ごみ拾いが終わると、清掃後の砂を圓谷さんがふるいにかけて見せてくれました。なんと、砂の中にはまだ細かいプラスチック破片が残っていることを発見! 子どもたちからは、「ごみを減らすために「一人だけでなくみんなで気を付ける」などの声が出ました。フジツボやクラゲなど、海の生き物に興味津々の子どもたちでした。

## 調査結果

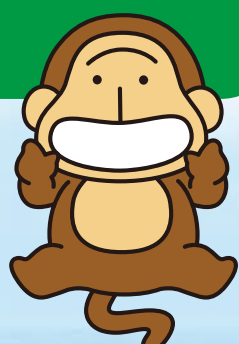


人工物を探してみよう!			そのうち外国のもの	
ガラス・陶器製品	ビン・茶碗など	6		
金属製品	缶、電化製品など	5		
プラスチック製品	ペットボトル、容器包装など	5	2	
ゴム製品	タイヤなど	2		
発泡スチロール製品	食品トレー、カップなど	2		
紙製品	紙袋、食品カップなど	2		
布製品	衣類、靴など	2		
漁具	タコ箱、カニ籠など	3		
その他	主に木材など	60		

自然物を探してみよう!	
岩石・鉱物・化石	
貝殻	二枚貝(ムラサキイノコ・カキ)、巻き貝
節足動物・甲殻類 ※カニ、フジツボなど	フジツボ、カニの爪
棘皮動物 ※ウニ、ヒトデなど	ウニ
その他無セキツイ動物 ※クラゲ、ユムシなど	クラゲ
海棲哺乳類 ※イルカ、トドなど	
その他セキツイ動物 ※魚など	鳥の羽根
海藻	コンブ、根コンブ、ワカメ
木の実など ※果実、種子など	クルミ、ドングリ、キノコ、クリ
その他	大根、玉子の殻、トウモロコシの殻

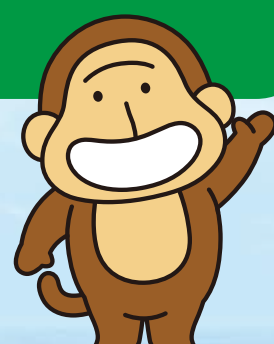
### ごみを調べて気が付いたことや感想は?

- 色々な種類の生き物が見られた。
- 楽しかった。
- 海が汚い。
- ごみが多くて嫌だった。
- ごみがものすごくあった。**
- 木が多かった。



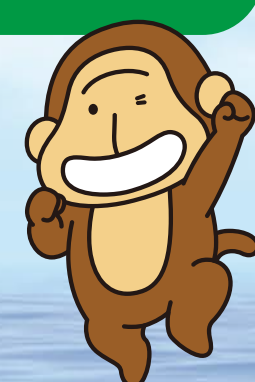
### どうやったらごみが減ると思いますか?

- みんなが清掃する。
- ごみを捨てないようにする。
- ごみを捨てる人がいないと減る。
- リサイクルする。
- ごみを外に捨てない。
- みんなが気を付ければ、ごみがなくなるかもしれない。



### これからどんなことに気を付けていきたいと思いますか?

- ごみをポイ捨てしない。
- ごみを捨てないようにする。
- 海にごみを捨てない。**
- あやしい(危険な)ものには、あまり触れないようにする。
- ごみはごみ箱にする。



### 引率の先生にインタビューしました



湯浜児童館 土谷敬さん

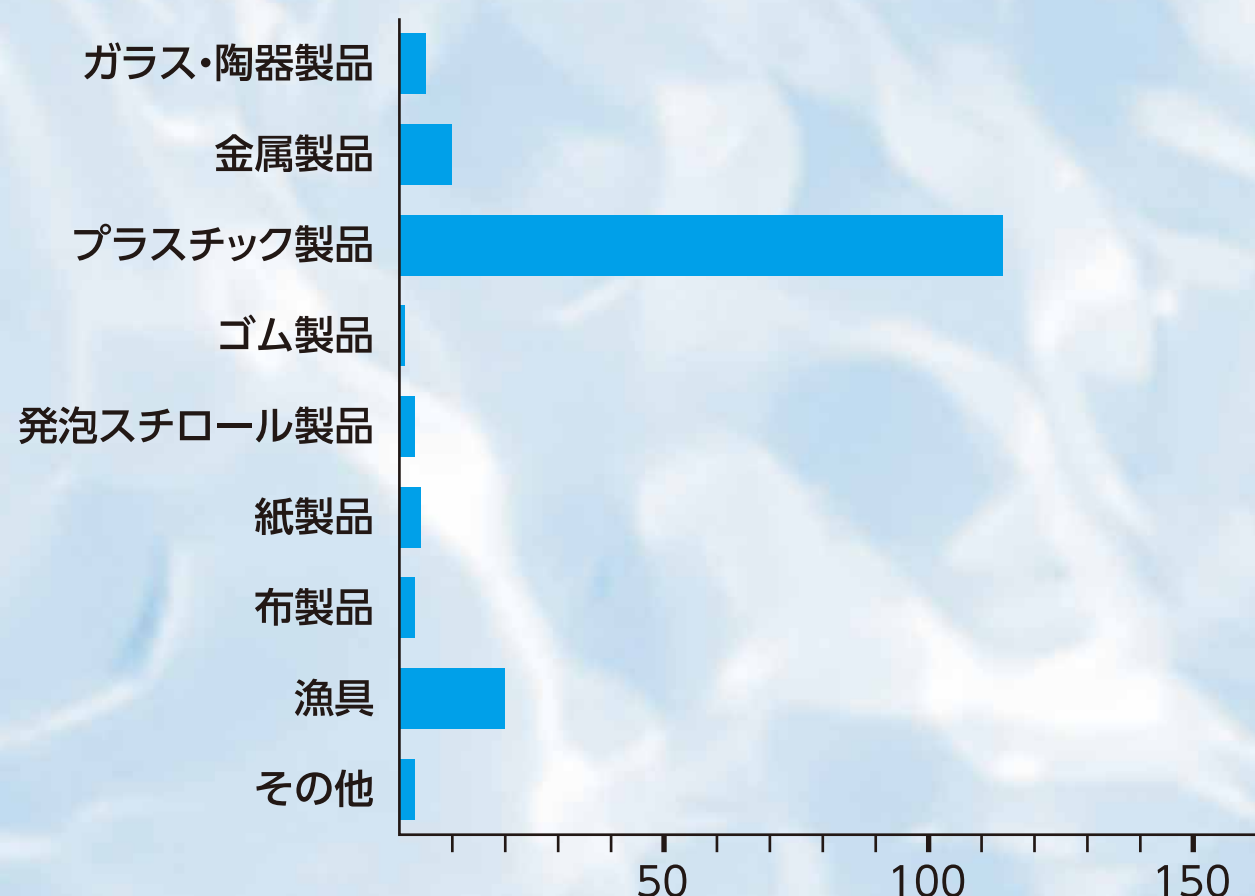
海になぜこんなにごみが落ちているのか考え、故郷の海をきれいに保全していくこと意識をもってほしいと思います。子どもたちが楽しそうに調査している姿を見て、ごみ調査は新しい海遊びとしても可能性を感じました。児童館周辺のごみ拾いはこれまででもしていましたが、離れた場所での活動は初めて。子どもの声も聞きながら、ぜひまた実施したいです。



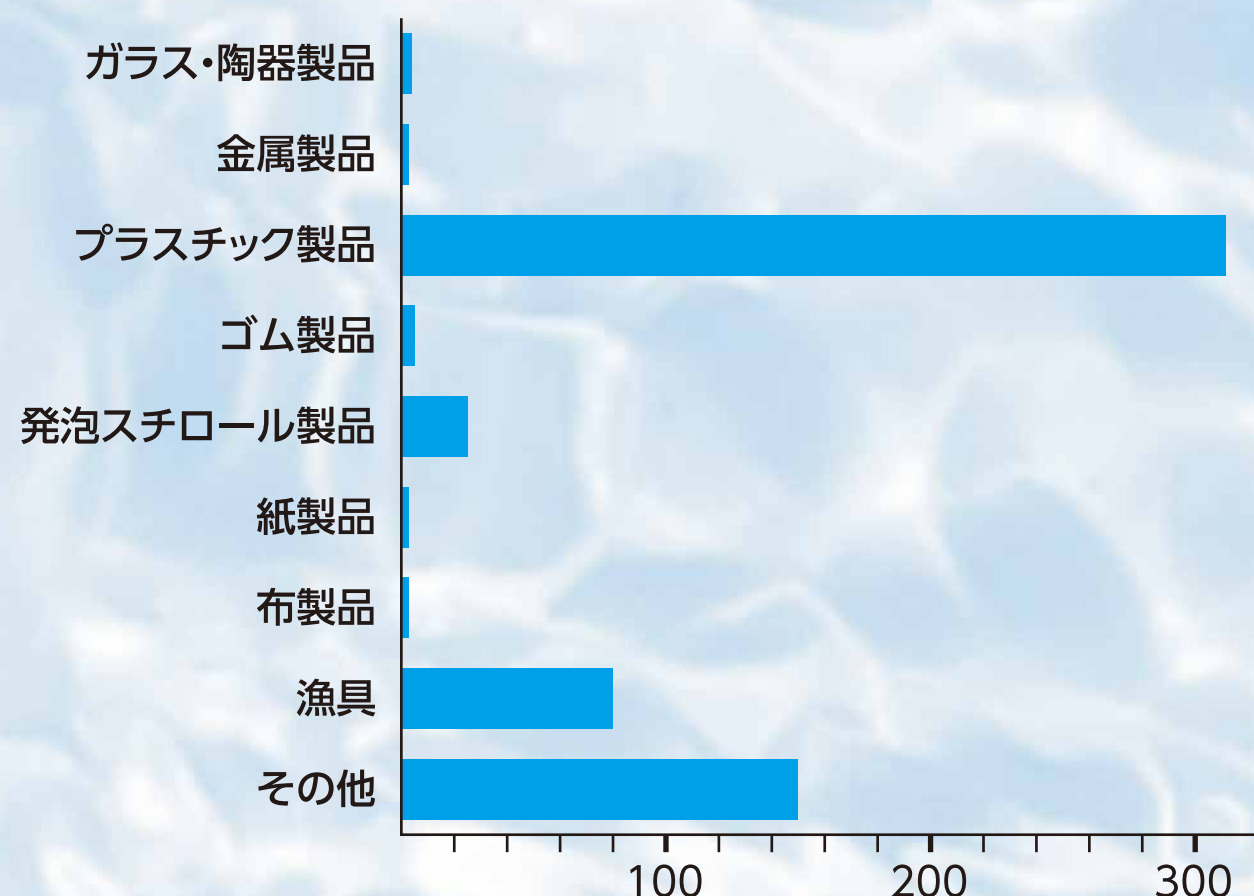
# 調査のまとめ

## 収集結果〈人工物〉

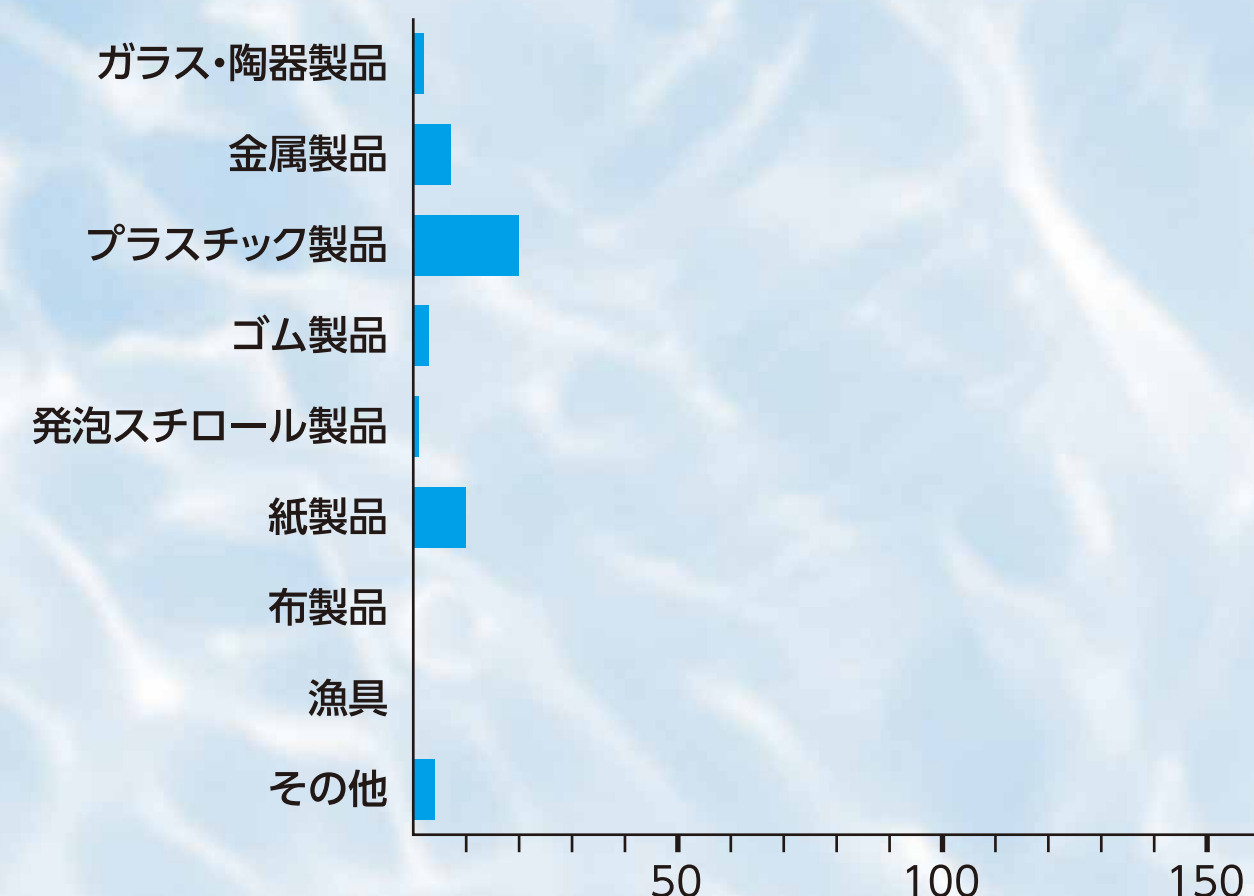
### オホーツク海編〈網走市〉



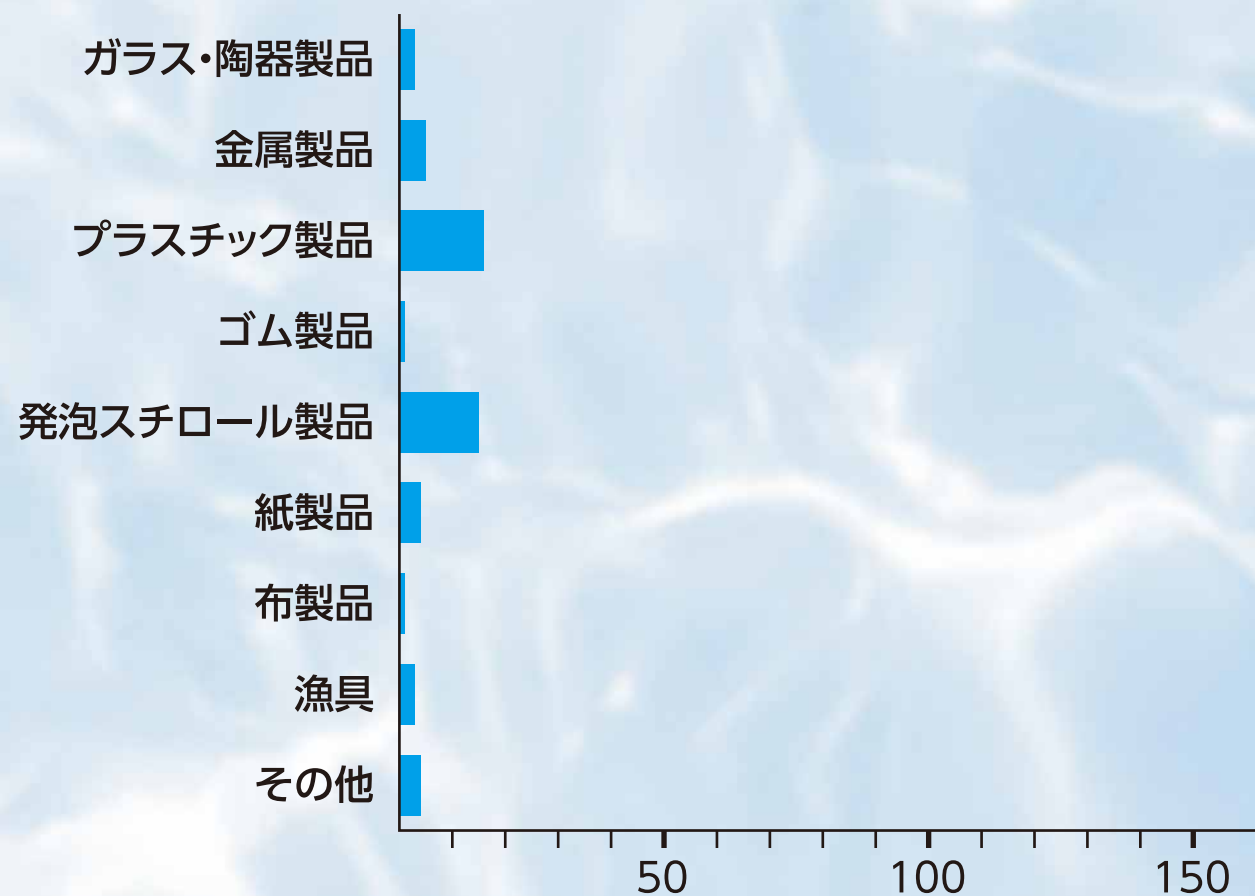
### 日本海編〈小樽市〉



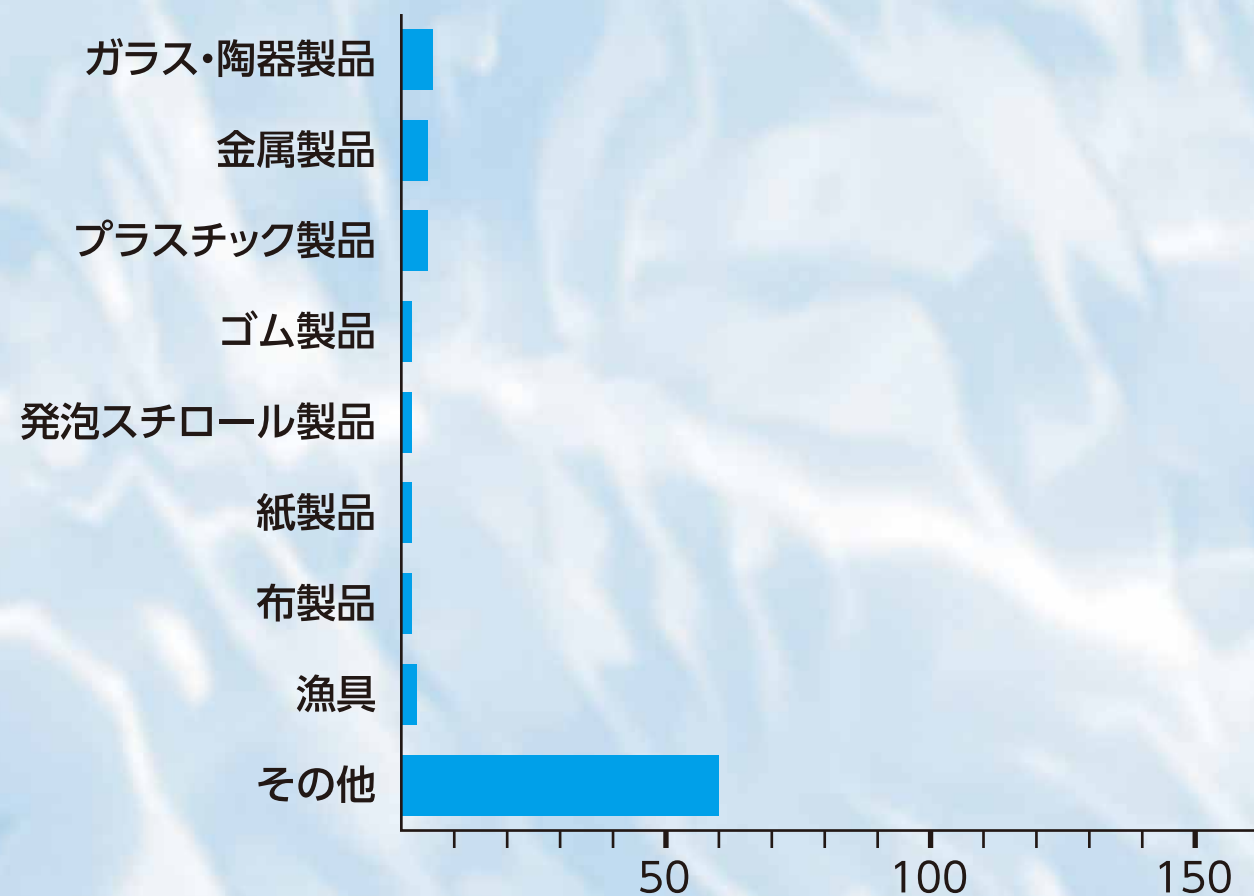
### 内陸編〈札幌市〉



### 太平洋編〈白糠町〉



### 津軽海峡編〈函館市〉



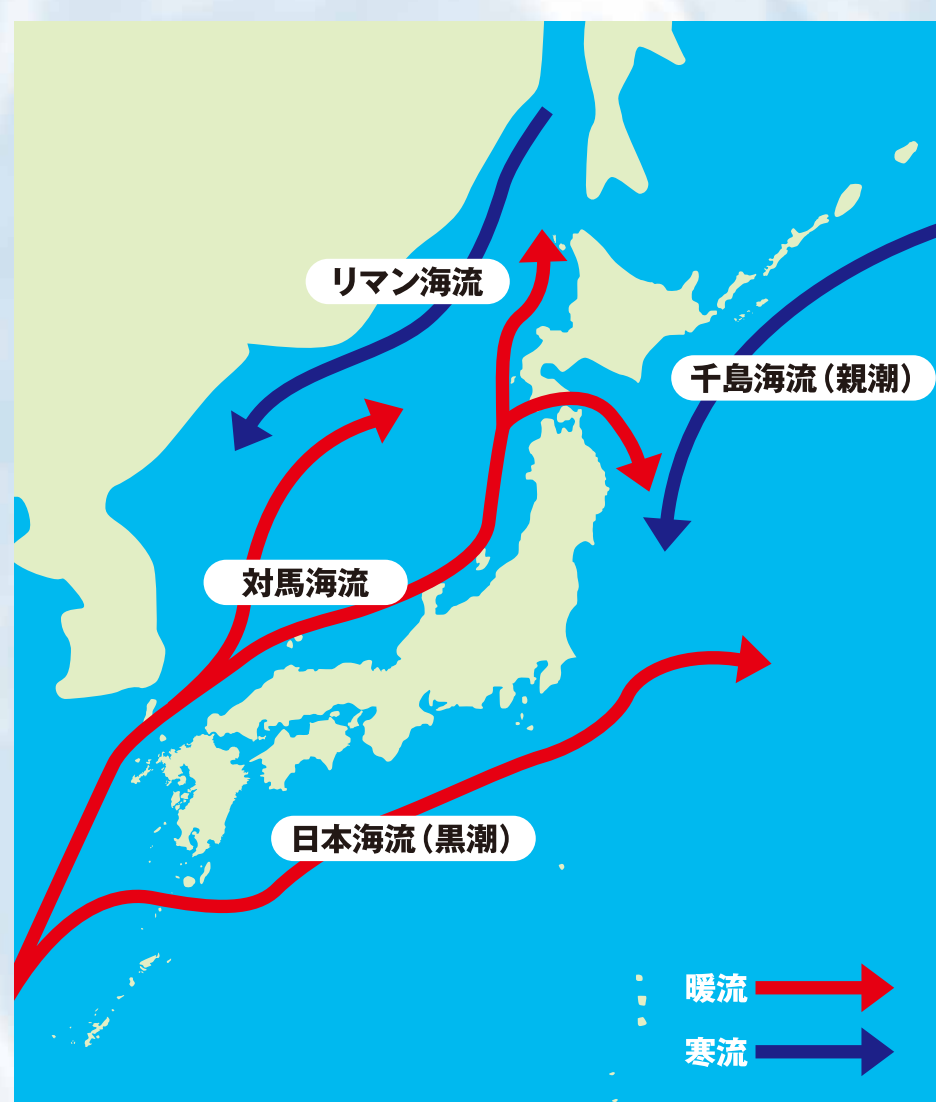
### 人工物のごみ量〈ワースト5〉

- 1位:プラスチック製品
- 2位:その他
- 3位:漁具
- 4位:発泡スチロール
- 5位:金属製品

## 特徴

### ごみからわかる、北海道の海流

人工物のうち外国のものに注目すると、小樽では中国・韓国、函館でも韓国、白糠ではロシアのものがありました。よって、小樽や函館のごみは、日本海を南から北に向かって流れる対馬暖流によって運ばれてきたものと考えられます。また、対馬暖流の末流が流れる網走では、中国や韓国などの南からのごみはほとんど見つかりませんでした。一方、白糠のごみは、北方四島を含む千島列島の近くを流れる千島海流(親潮)が運んできた可能性が考えられます。このように、北海道を取り巻く海流や自然環境の特徴が反映された結果となりました。



### 場所を問わず、生活ごみが多数。

白糠では、ペットボトルや食品トレーなど、道の駅を訪れた人が捨てたと思われるものが複数ありました。プラスチック製品や発泡スチロール製品は、どの海岸にも必ず見られました。今回の調査場所で唯一、海と離れている札幌では、公園内の目立つ場所でのごみは少なかったものの、人の目が届かない植え込みの中で空き缶やスナック菓子の袋、食品の容器などが見つかりました。海岸でも内陸でも、「生活ごみ」が多く捨てられていることがわかりました。



# 調査のまとめ

## 収集結果



ペットボトルの内側に二枚貝が生息!



### 貝の種類で海岸の特徴がわかる!?

札幌を除く4海岸には、いろいろな貝殻が落ちていました。貝殻の種類をしてみると、小樽ではコタマガイやウバガイ(ホッキガイ)などの二枚貝、函館ではムラサキインコやカキなどの二枚貝や巻貝、網走ではホタテといったように、地域によって貝の種類が異なっていたようです。今後、貝に注目して調査してみると、海岸の特徴や海流の影響などがより詳しくわかるかもしれません。

## 子どもたちの感想から見たこと

### 海を観察するきっかけに

たくさんのごみで海岸が汚れていることに驚いた子どもたちが多かったようです。海そばに住んでいる子どもたちでも、実際に海に行く機会はそれほど多くはなく、海をじっくり見る機会もこれまでほとんどなかったことがわかりました。今回の調査は、海を観察するきっかけになったようです。

### ごみが多い現状を知る

「予想よりもごみが多かった」という声は、海岸・内陸どちらでも共通していました。函館では、近隣の町内会の皆さんが1週間前にごみ拾いをしたにもかかわらず多くのごみが見つかり、子どもたちは「1週間だけでもこれだけ多くのごみがたまるんだ」と実感したようです。自分のふるさとが汚れてしまっている現状を知りました。

### 自分ごととしてとらえる

たくさんのごみを目にして、子どもたちは自分に何ができるかを考えました。「ポイ捨てしない」「町の清掃活動に参加する」など具体的な意見が多く出され、子どもたちが自分ごととしてとらえていることがわかりました。自分だけでなく周りの人にも伝えて、活動の輪を広げていこうとする姿も見られました。

## 全体を通して

砂の中や植え込みなど普段見ないところまで調べることで、何気なく見ている分にはきれいに見える場所も実は汚れているところがあると気付きました。海で見つけたごみの中には、プラスチック製品など生活に関わるごみも多数あり、海と生活の場がつながっていることを子どもたちは実感したようです。ごみのないきれいな環境にするためには、子どもだけでなく、家庭や地域にも意識を根付かせることが大切だとわかりました。

### 北海道博物館研究職員 圓谷昂史さんより



海辺に住んでいても意外と海に行っていない子どもが多いことがわかり、今回の調査が海や環境に興味を持つ一つのきっかけになると嬉しいです。内陸の子どもたちも、自分の地域で見つけたごみと海辺のごみを比較することで、どんなことが起こっているのか想像力を働かせてもらいたいですね。子どもたちが自然の見方や調べ方を知り、これからどう活動していくのかを考える貴重な機会になり、未来へつなげる活動だったと思います。